2021 年 9 月 17 日に日本ベントス学会・プランクトン学会合同大会の自由集会企画として、「分野横断で挑む海洋幼生生態学」を開催しました。昨年に引き続き、合同大会は全面オンライン開催となったため、参加者は各々の所属機関や自宅からの参加となりました。

海洋ベントスの多くはプランクトン幼生期に浮遊分散した後、成体の生息場所近辺で着底することが知られています。多くの研究者が、プランクトン幼生がどの程度の距離をどのような経路で分散し、どのように着底場所を選択し、いかなる分子的機構による変態を経て、底生生活期へと移行していくのか、といったことを解明するために研究を進めているものの、未解明な点も多く残されています。これら幼生生態の解明は個体群生態学、進化生態学、保全生態学、水産増養殖、付着生物防除など多岐にわたる分野の発展に貢献する重要な課題です。幼生生態に関する質の高い研究を展開していくには、専門外の分野の発展にも着眼し、既存分野の横断的な研究を展開していくことも重要だと考えられます。しかし企画者らの印象では、幼生を扱っている異分野の研究者が交流する機会が限られています。そこで本自由集会では、様々な専門分野の 8 名の講演者から多様な分類群の幼生を対象とした最新の研究について紹介いただき、2 名のコメントーターも交えて“幼生”をキーワードとした分野横断的な議論を行いました（表 1）。

自由集会には最大 70 名程度の参加者が集い、盛会となりました。

また、普段所属しているコミュニティが異なるだけで、内容的には近い研究をしている研究者や異なる視点を持った研究者同士の交流の場となり、企画者・講演者・コメントーターはお互いに有益な意見交換を行うことができました。コメントーターの井口亮氏からは、要旨集のワードを使ったネットワーク分析の結果を示していただき、異なる専門の講演者同士が上手く繋がっていることがわかり（図 1）、今後の継続的な情報交換や共同研究への発展も期待されます。また松村清隆氏からは、普段はあまり交流のない様々なバックグラウンドの研究者が議論できる貴重な場であったという評価と、将来的には国際シンポジウムへの発展も考えてみてはどうか、という提案をいただきました。企画者らは本自由集会での手応えと実績を元に、まずは国内で継続的な海洋幼生生態学ネットワークを構築していきたいと考えています。自由集会にご参加くださった方、ベントス学会・プランクトン学会の皆様からもご意見・ご感想をいただけますと幸いです。

最後になりますが、大会実行委員会の皆様には企画から集会当日の運営に至るまで多大なご支援をいただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

企画者：頼末武史

（兵庫県立大／兵庫県立人と自然の博物館）、

佐藤允昭（水研機構／水産技術研究所）、

矢萩拓也（東大大気海洋研）

表 1. 自由集会「分野横断で挑む海洋幼生生態学」のプログラム。

時間	演題	演者
12:00-12:10	趣旨説明	頼末武史
12:10-12:35	ゴカイ科多毛類（環形動物門）の浮遊幼生の定着過程	菅孔太郎
12:35-13:00	深海熱水噴出域ベントスにおける幼生鉛直移動と海洋表層分散	矢萩拓也
13:00-13:25	両側回遊性貝類の幼生分散と進化	福森啓晶
13:30-13:55	通し回遊性魚類の幼生の分散と滞留	飯田碧
13:55-14:20	沿岸性魚類の浮遊仔魚の分散と流況・地形との関係	佐藤允昭
14:20-14:45	フジツボキブリス幼生の着生前探索行動と付着基質表面性状との関係	室崎喬之*・平井悠司・野方靖行
14:50-15:15	ヒラメの変態とその分子メカニズムを理解したい	横井勇人*・鈴木徹
15:15-15:40	ホヤ幼生変態開始機構のイメージングによる定量解析	堀田耕司
15:40-16:00	総合討論	コメントーター：井口亮、松村清隆

*は発表者

図 1. 講演要旨集のワードを元にしたネットワーク分析の結果（提供、井口亮氏）